
カミュイ

メイシア マルキュリア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

力ミユイ

【Zコード】

Z0931D

【作者名】

マイシア マルキュリア

【あらすじ】

神は私達の住む大宇宙そのものであり、すべてのすべてであります野咲く一輪の花が神であり、水が、光が、空気が神であり、大地が海が空が神の現れの相スガタでもあるのです人は大宇宙の真実を知つて、その道を歩み出したときに人生の本当の意味、意義、価値が現れてくるものなのです

ねむめ

私達人間は何故、何の為にこの地球なる星の上に生まれ生きているのでしょうか

私はある時からこの問題を考えるようになり心から離れなくなりました

私達人間は今ここに存在して生きていますが、ごく当たり前に思われていることは本当に当たり前なのでしょうか

人間は朝起きて御飯を食べて学校に行って勉強をして、会社に行って仕事をこなしつつ年を取つて死んで行くだけなのでしょうか

この世界はすべてが必然であつて偶然は一つもなく、起こる出来事は起じるべくして起こるとあるときに何かの文献で知りました

私もそうだと思います

自分に起こる様々な出来事は必ず自分にとつて必要だから起こるのであってその中には自分が気づくべきこと体験しなければならないことが必ずあるのだと思われるのです

さらに入間そのものの存在の必然性、意味とはいつたいどのようなことなのでありますか

私はまだ幼い頃に、なぜ自分が今ここにいるのかどうかと何とも不思議な気持ちになつたものでした

皆様も自分という存在が肉体をもつて一つの意志をもつていることを不思議に思われたことはありませんでしょうか

たとえば転んでひざひじやうを擦りむいて怪我をしたりすると痛みを感じ、食事をするとおこしこうでないとかを感じる肉体があります

そして花を見てきれいだなあとか褒められたり可愛がられたりするとうれしく感じたり、怒られたり嫌なことをされたりした時、憤りや怒り、悲しみがわき上がって来たりする心があります
これがなんとも不思議な感じがしたこと思い出します

今までこそ言葉を使うことを覚えておりますからすぐにその想いを表現出来るようになつてはおりますが、まだ幼い頃には言葉の表現を知らず、身の回りに起こる様々な出来事によつて湧き出てくる感情と心の想いというものが、幼い胸の中を暴れまわり幾度となく戸惑いを覚えました

訴えることも出来ずに胸が張り裂けそうな気持ちになつて、どうしたらよいのかわからなくなつてしまつたり、不安にかられることもしばしばありました

わたしは幼い時にこの暴力的なまでにわき出でくる自分の想いいうものがとても恐ろしい気がしたのです

幼い頃の私はとても気が弱く泣き虫でした、おとなしい方でしたからよくいじめられたもので、私がすぐ泣き出してしまつものですからいじめる方もおもしろがつて、寄つてたかつていじめられたものでした

あげくには女の子にまでいじめられる始末です

いじめられた時、言い返したりたき返せばいいものをどうしてもそれが出来なかつたのです

その悔しさと自分への情けなさに胸が一杯になつて涙が止まらなくなるのです

今度は絶対言い返してやるぞと思つのですが結局、何を言われてもじつと下を向いて耐えているしか出来ないのでした
又ほかの子がいじめられているときは飛び込んで助けたいと思つただけれど

その勇気がもてずにそれが出来ないです

そんな自分が情けなく、いやで仕方がありませんでした

その頃、テレビを見ておりますと正義の味方が悪者をやつつけるようなヒーロー物の全盛期がありました

テレビに出てくるヒーローがどんな困難に陥つても、不屈の精神で切り抜けて、命を賭けて弱いものを救う姿がありました
自分もこのように弱い者を助け悪い奴をやつつけるような強くて優しい人になりたいと強く思つたものでした

正しいことを貫くには勇気と力が必要だ、勇気がなければ正しいこともねじ曲げられてしまうと

子供の頃の私はそう思つたものです

今、自分の幼い頃からの体験を振り返つて考えてみれば、その出来事の一つひとつにとても大切な意味があつたことなのだとしみじみ思われます

この頃から私は世の中の真実、真理はなんであるかとか、物事の本質とは何んであるか、人間は何故、何の為に生きるのか
そして人間は死んだ後はどうなつて行くのかなどのことなどに興味を持ち始めました

その答えを探すべくお釈迦様の本を読んでみたりイエス様の物語や天地創造の話、地球の成り立ちや宇宙のこと、心理学書や哲学書、物理学や天文学、いろいろな宗教の本など、日にしき耳に聞くものは機会あるごとに触れ、読み、聞き入ったものでした

そして色々と学んでゆくうちに想われた事は、様々な学問や科学、医学、宗教や哲学など、この先もっと突き詰められたならば全部一つのものに融合するのではないかと云う事です

そして一つひとつ物事を見ればさまざまな事柄のように見えるけれど、もとは一つの所から現れて来たものなのではないだろうかと・

様々な発明もその発想の原点はどこかの世界に厳然とあって、それが何らかの理由によつてある人間を通して流れてこの世に現れて、文明や文化や科学が現在のように進歩して来たのではないだろうか・

過去の様々な偉人、賢人の発明、発見や有名な画家などの残された絵や像などの美術品

様々な音楽家が残された音の調べ、このような発明発見の機会、芸術などのイメージはいったい何処から現れてくるものなのでしょうか

ある時にホーキング博士の宇宙物理学の本に出会いましてその疑問が少し解かれたのでした

その内容とは、私達の存在する宇宙は小指の爪の先ほどの超高密度、超高温の状態から大爆発（ビックバン）を起こし、今なお広がり続けていてやがて極限まで広がった後はその逆に元の小指の爪先の大きさほどにまで収縮して元に戻るのだそうです

ですから宇宙全体の質量もエネルギーも小指の爪先ほどの時も今現在も全く変わらなくて、その膨張と収縮の一つのサイクルが何百億

年もかかるのだそうです

宇宙はその膨張と収縮を何度も無限に繰り返してゆくといつ推測が天体観測や計算から成り立つのだそうです

そしてそのような宇宙が何と一つではなくたくさんの宇宙がありまして、その一つひとつが膨張と収縮を無限に繰り返してゆくのだそうです

私達の存在する大宇宙一つをみましても、それはもう想像を絶するほどに果てしなく大きく広い上に、その中には数え切れないほどの銀河系宇宙が存在しており、その中の一銀河系だけを見ましても、そこには数え切れないほどの星々が存在していて、その中の一つに私達の地球があるのです

そして地球上にはたくさんの人間が住んでいます
そのような宇宙が外にもたくさんあるとかからもう想像を超えた世界のように感じられます

難しい計算上の根拠は私にはわかりませんが、何故でしょか確かにそうだろうと思われたのでした

小学生の頃、なぞの円盤とか超能力がはやつておりました
テレビでは様々な人が、宇宙人がいるとかいないとか、スプーンを触らずに曲げたりすることの真偽を話合っているのを見ておりまして、みんな随分不思議なことを考えるなんだなと思っておりました

何故かと申しますと、私達が存在する宇宙にはもう数え切れないほどの星々があるのはだれが考へてもわかる事実であります、その星の一つである地球上に自分達のような人間が存在するのだから、他の星や天体にも宇宙人なる人間が存在するのは当然と思われること

でありまして、宇宙人は存在しないと言つならば私達は地球に存在しないと言つているのと変わらないと私には思われるのです

超能力が日本に流行りましたきっかけは、やはりゴリ・グラーさんの来日によつてではないでしょうか

テレビでスプーンを擦るだけで曲げてしまつたり、今迄ピクリともしなかつた壊れた時計が目の前で動き出してしまつたりなど、それはもう小学校などでも皆がスプーンをもつて来て後ろに投げたり擦つたり、超能力の練習をしたものでした

やがてある一人の子が、皆を驚かせようとして魔術師よろしく、皆が見てないところで巧みに指の力で曲げて、落ちたスプーンをさも投げただけで曲がったように見せたのです

これは一回二回とするうちにネタがばれてしまいました

いつの間にやら世間でもやはり超能力はインチキだと言われるようになりました

しかしながら私の場合は、あのゴリ・グラーさんがテレビでスプーンを曲げる念を送つておりました時、目の前でも同じ出来事が起つていたのです

その時に私の母の左手の一本指につままれたスプーンが餡のように見る見る曲がつてしまつのです

これには驚きました・・・・・

そんな調子で五、六本のスプーンを曲げてしまつましたが、これはと思った兄が今度は壊れた時計がどこかにあつたことを思い出しましてそれを探して持つて来まして、早速、母がそれを擦つてみた所、あれよといつ間に動き出すのでした

思わず家族中で唸つてしましました

この時私は、人間は思うだけでもスプーンを曲げたり物を動かしたりする力がある事をまざまざと見せて戴きました

でもその時父だけは目の前で見ていたにもかかわらず、それはまやかしだ偶然だと書いて、目の前で起こった現象を認めなかつたのです
私にはそのように言う父の方が不思議に思えたものでした

その頃私には一つ気になる事がありました

それは聖書や色々な文献を読むうちに心の中に言い知れない不安となつて陰を残すのです

それは西暦2000年前後に私達の住む地球が滅び去ってしまうと言われた予言のことなのでした

ノストラダムスを始め数々の予言書に記述される滅亡の影、そして地球を取り巻く環境問題

教育や経済、人口問題、飢餓と紛争、核兵器

今この瞬間にもこの地球のどこかで戦争や犯罪、争いが絶えず起こつており、罪のない人々が嘆き悲しみ苦しみながら死んでゆく現実があります

何万もの人達が食べる物がなく飢えて死んでゆく現実があります

さらには人類がつくりだした公害によつて海や川は汚れてしまい、森や林は砂漠と化し、オゾン層は破壊され、地球は温暖化によりやがて低いところから海に沈むと言われます

巷のニュースを聞きましても信じられないような、惨く痛ましい事件が日常茶飯事におこる始末です

このように不調和な世の中ではどんなに楽観的に見つめましてもこ

のまま人類の繁栄が続くとはとても考えられません

予言書を見なくても現実に人類は滅亡の様相をあらわしており、それは遠い未来の事ではなくもう目前に迫っているのではと思われてくるのです

これはなんとかしなければ大変なことになるぞと心では思うのですが自分には何も出来ないばかりか、よくよく自分を見つめて見れば私自身が生活排水を流して川や海を汚し、「ゴミ」は平気で捨てて、車に乗つて排気ガスで空気を汚し、生きている動植物を殺して食べて、おなかが一杯になれば平気で残して捨ててしまつてい

自分がお金持ちになつて人も羨む様な贅沢な暮らしを望み、休日にはあれこれとレジャー や買物に耽り、かわいい女の子を見れば手をつけたいと思い、自分に不都合なことを嫌いすぐ他や人のせいにしてしまい、あいつが悪いのこいつが悪いの、国が悪いの、政治が悪いの、あれもしたいこれもしたいと際限なく想い、望み、行つている自分があるのです

までよ、ひょっとしたら自分もこの地球を滅亡させるほうに貢献してしまつてしているのではないだろうかと・・・気がついたのでした

（これはいけない）今まで自分ではそこそこましな人間だと思つていたのが実は何とも愚かでどうしようもなく

表面ではいい人、優しい人、頼りになる人を気取つて、その中身は自分にとつて都合のいいこと、利益になること、興味を引かれることしかやらず

人のことなどあまり感知せず、己の幸せの為に生きているような、そんな人間ではないだろうか・・・

いくら善人を気取つたところでこれではどうしようもないではありますか

胸に込み上げてくる醜い浅ましい想いは押さえようにも押さえられ

ないのです

動物やお魚を吃るのは可哀想だと書いて我慢をしても、植物だって生きているのだから命を犠牲にすることには変わらない
水だけで動植物を食べずとも生きていければよいけれど、よく考えてみれば自分の肉体が動植物の犠牲なく、空氣や水を汚すことなくして生きることも出来ない現実があるのです

お釈迦様の御教えの中に因果応報とありますで、自分がつくった原因は必ず自己に報いとなつて返つてくるので、人に良いことをすれば自分も良くなり、悪いことをするとそれが自分の身の上にも返つて来るのですと

私が幼稚園に通つていた時に教わつたものです

気がつけば自分自身が罪を作り続けて来ており、もつどんな目に遭つてもしょうがないのではないだろうかと想わたのです

そしてこの世の中には偶然の出来事は一切なくてすべてが必然であるとも教わりました

でも待てよ、そうすると今のよつな私でも生かされているといふことは何か意味があるのだろうか・・・・と、この大問題をしばらく考えておりましたら

ある日、突然にポンと閃いたのです

そうだ！地球の自然に大なり小なり弊害を及ぼさずには生きられないと自分がここに存在していることは確かなのだし、今の自分をすぐには変えることは出来ない

ということは自分の罪や生かされていることに見合つよつな役に立つ人間にならなければいけないのだと

自分を支えてくれている人や自然やすべての期待に応えられるよう

な人間にならなければいけないのだと

そう想つた時に今まで心の中の矛盾した想いがすつと晴れるような
気がいたしました

人が生きることとは、自分を活かし周りの人や物を活かして互いに
成長し社会や自然に貢献してゆく事とその時に思つたのでした

私達人間の肉体はとても複雑でいろいろな機能が高い段階で働いて
おります、その複雑な造りから人体は小宇宙とも言われます

例えばどこか一つでも狂つたりしたならばたちまち死に至つてしま
う事もあれば、どのような無理をしても案外平氣であつたりするこ
ともあります

このような複雑な肉体の造りだけを見てとっても、生きて動いてい
ることがもう奇跡でありまして、なにものか偉大な存在があられて
その力によって生かされ育まれているとしか考えよづが無い事なの
ではないでしょうか

太古の昔からその大いなる存在を人類は神と呼び、社へ奉り、日々
の生活を無事に過ごせるように拝み崇めて、時には天罰を恐れて供
物を供したりしてまいりました

しかし神様とは本当はどのような存在なのでしょうか
どこにおられるのでしょうか

誰もが知る神様という存在を私達人間はどこまで知つてているのでし
ょうか・・・・・

愚かで浅ましく、「己のことしか考えずに生きてきた様な自分のよう
な人間でも、神はこれを生かし、神の御心にかなう人間となさんが
為これを守り、これを導き、無限の恵みを与え、無限の慈しみをも
ち、無限の忍耐をしてこれを育み続ける

神は私達の住む大宇宙そのものであり、すべてのすべてであります

野に咲く一輪の花が神スガタであり、水が、光が、空気が神であり、大地が海が空が神の現れの相スカタでもあるのです

人は大宇宙の真実を知つて、その道を歩み出したときには人生の本当の意味、意義、価値が現れてくるものなのです

大宇宙と人間の眞実

私達人間の存在しておりますこの大宇宙は、遙かなる前に非常な高温、高密度の状態から爆発的に膨張を始めたと考えられております。このような宇宙の初めての状態をビックバンと呼んでおります。

大爆発から始まり、それ以来ずっと拡がり続けているのだそうです。が、これは遠方のいくつもの銀河を観測することによって判明したことあります。

それは1920年代にエド温イン・ハッブルの観測結果によつて互いの銀河が時間を追うごとに次第に遠ざかっていることが明らかとなり、宇宙が膨張し続けていることが世に知られたのです。さらに現在の銀河の運動から過去の銀河の状態をコンピュータによる計算によつて推測いたしますと100億から200億年前のある時点ですべての銀河が一つに重なり合つ事になつたのです。これは大宇宙がたつた一つの点であつた時があることを意味するものです。

それは大宇宙が始まる瞬間の状態であつた訳です。

さらに宇宙が膨張の極に達した時点から今度は収縮をはじめ、もとの点にもどると推測されており、これをビッククランチと呼ぶそうです。

大宇宙はおよそ500億年の間にこのような膨張と収縮をあらわすのだそうです。

そして私達の存在する大宇宙がひとつだけ存在するのではなく、同じような大宇宙が他にもたくさん存在するのだそうです。

ひとつの大宇宙には3000億+@の銀河系宇宙が存在し、その銀河系宇宙の中には3000億+@の星々が存在し、そのすべての

星々に人類が存在しており

星のない時空間にも人類が存在しているのです

ここまでお話ししたしますと良識ある方々ならこの話は眉唾物だと思われることでしょう

でもここでちょっと考えてみてください

私達人間は元はどこから来たのでしょうか

この目に見える肉体だけが人間のすべてなのでしょうか
心とは魂とは一体何処にあるのでしょうか

肉体を切り刻んでも魂や心は出ではきません、細胞形成による組織
体が存在するだけです

でも、心は厳然とすることは誰もが知っています

生まれて来る前、死んだ後に人はどうなつてゆくのでしょうか
それとも死後の世界はあり得ないのでしょうか
人間と大宇宙との関係はいつたいどのような事なのであります
か・・・・

人間は大宇宙に存在しております、そして地球という星があります
人間の肉体要素のほとんどは星の成分要素から出来ております
肉体を育む食物となつていてる動植物や、水、光、空気
天地自然のあらゆる恵みは地球からいただいております
これらのすべてが偶然に現れていくと思われるのでしょうか
肉体を維持してゆけるように完璧なまでに現れている天地自然の仕
組みをあなたは偶然とお考えになるのでしょうか

世に偶然なるものは一つも無いといわれます
理由がなければ存在することは無いのです

人間が存在する理由、大宇宙における人間の必要がなければ私達は

ここには存在し得ないのではないでどうか

そして大宇宙における人間の必要とはどのような事なのでしょうか

初めに人間を生かし育む環境を宇宙なる神様から分かれた神々様、天地七柱の神々様を中心に星が現されます

古事記にはこの事が書かれています

神話の中には天之御中主大神様の天地創造から、イザナキ、イザナミの國^{クニ}生み、神生みの話、これはイザナキの神とイザナミの神の契りによって國^{クニ}が生まれ神（人）が生まれる事々が書き記されております

その時に天之御中主大神様はイザナキ、イザナミの神に一つの使命をお与えになりました

そしてそれが私達人間の存在価値、使命でもあつた訳なのです

「天地^{アメツチ}は開けたばかりで国^{クニ}はまだ稚く浮かんだ脂のようごとごとと
と、海月^{クラゲ}の漂つていてるようゆらゆらゆれ動いてる。この国^{クニ}を、
高天の原^{タカマノハラ}のような立派な完全な姿に修め理り固め成さい」とこのよ
うに古事記には書き記されております

まだまだ不完全なこの天地を天上神界のように全く調和された世界に成してゆくこと

人間は姿なき形なき宇宙なる神様に成り代わり、大宇宙を大調和ならしめるための無限創造を担う存在者なのです

お釈迦様の教えの中には人間は生まれ変わり生まれ変わりするといわ
れる輪廻転生の教えはご存じの方は多いと思われます

ベストセラーにもなりました生まれ変わりの科学について書かれた本には、臨死体験や催眠療法などによる死後又は生まられてくる以前の世界を垣間見た、沢山の方々の実例が数多く紹介されておりました
これはもう、人間は肉体だけの存在者ではないということを歴然と

語るものでありまして、死後の世界や生まれる前の世界、いわゆる肉体をもたない魂の世界が厳然と存在することを指し示すものではないかと思われます

そして生まれ変わるそのものの意味や運命の意味、親子兄弟友人などすべての人間関係も偶然に現れてくるものではないということなのです

肉体から離れた魂の世界、いわゆる死後の世界がまるで未知のことのように思われますが、死んだ後自分はいつたいどうなつてどこへ行ってしまうのだろうと不安に思つたり怖がつたりする必要は全くないのです

何故なら今現在私達が生きているということは、だれ一人この見えない世界を経験されていない方はいないということになるのです。そればかりか日本人として生まれ出でて現れている人々のほとんどの方は数千回から数万回の生まれ変わりを繰り返し経験している事になるのです

人間の肉体には魂が宿つております

この魂の中に本当の自分、すなわち分靈が宿つているのです

人間とは分靈、魂、肉体の三つの要素から成り立っているのです

へえー、魂までは聞いたこともあるけれど分靈とはいつたい何だろうと思われる方もおられるでしょう

分靈とは一体なんのことでありましょつか？

宇宙の始まりは小指の爪先ほどのテンであったのです
そしてこれが答えなのです

現れた大宇宙はテンから始まってテンに終わる

大宇宙に存在しているすべての要素はこのテンの中についた訳なのです

宇宙は今現在も広がり続けているそうですが、その質量自体は初めから終わりまで増えもせず減りもしていない不可思議なものなのです

自分自身の肉体や、地球という星の要素はもちろん

この大宇宙のすべての銀河を含めてたつた一つのテンの中から現れていることになるのです・・・・

いかがでしょうか

こうなりますと人間の肉体感覚から考えましても全く理解のできない事のように思われてしまいます

そこにはだれがどのように考えてみましても、神なる存在を抜きにしては考えられないのではないかと思われます

この大宇宙なるすべてのおおもとを宇宙なる神様とお呼びいたします

私達の肉体要素はもちろん無限に近い星々や天体、無限数の銀河系宇宙を始め非物質である魂や、水、光、空気など大宇宙に存在するすべてのものは宇宙なる神様から分かれ出でた一つひとつ要素なのであり、宇宙なる神様のお体の一部なのです

このあらわれの大宇宙は私達人間にたとえれば肉体にあたる訳です
神様の肉体が大宇宙ならばそこに宿る靈を大靈と申しあげます
私達の魂の中にある分靈とは、宇宙なる神様の大靈が分かれわかつて一人ひとりの人間のなかに存在しているのです

これは他の動植物とは異なる構成でありまして、人間だけが有するものなのです

それは人間だけが大宇宙なる神様から「えられた使命と権利でもあります

大宇宙なる神様は人間を創りその一人ひとりの中に「自身が宿されて
その分かれた人間の一人ひとりに自由と尊厳という権利と、この大
宇宙を大調和ならしめるべく無限創造に導く使命を与えたもの
なのです

宇宙なる神様から分かれて現れた人間は、宇宙なる神様に成り代わ
り、この現れの大宇宙を無限創造に導きあらわす存在者でもあるの
です

そして宇宙なる神様と同じ資質をだれもが等しく備えられており
間は本来宇宙なる神様と同じ力を自由に使うことが出来るものなの
です

自分にはそんな力はないと、そう思われるのも無理はありません
思えない理由の一つは私達の住んでいるこの地球、そして私達一人
ひとりの人間を毒ガスのように包みこんでいるカルマが原因なのです
さらにはこのカルマというものが人類を滅亡させる原因でもある事
を知る人は少ないのでしょうか

カルマは私達人間が宇宙なる神様よりいたい自由と尊厳

これを思い違えて自己に与えられた使命本分を果さずに大宇宙から
外れた人間の想いを行いを繰り返し、自由に自己満足の生活にふけつ
て来た不心得の結果などもあります

このカルマという業想念が、人類の始まりから現在に至まで、返済
不能な借金のように地球そのもの、各國々、そして個人の上にもう
ず高く積もりに積もり、さらに積み続けているような状態なのです

誰ひとりこの責任から逃れられる人はおりません

何故なら、人間は過去から現在に至まで地球上にて生まれ変わりを

繰り返してきた中で、誰ひとりとしてカルマをつぶらずにきた人はいないということなのです

今、カルマの影響により私達の住む地球と人類はもうのるかそるかの土俵際、ギリギリ一杯の所に立たされているのです

人間は本来宇宙なる神様より分かれて現れの大宇宙を大調和ならしめるための無限創造を行うべき存在者なのであります

ですから人間は大宇宙を創造する力

宇宙なる神様と等しく遙かなる大愛と全知全能をおされた立場上においてあらわすことが出来るものなのです。それは神から見た人間の必要は必ず成就することでもあるのです

自己に与えられた天命（使命）は人間さえその気になれば必ず成就出来るようになっているのです

そして大宇宙の無限創造を行う力、その最大のものが祈り（言靈）なのです

祈りは心の響きです

大宇宙をお創りになられた宇宙なる神様は一音で大宇宙をお創りになられたのです

そして一瞬の間断もなくこの言靈を発しておられ、大宇宙に存在するすべてはこの言靈によつて現れ出でており、それらを生成発展させてゆく力になるのも又この力なのです

この響きのことを科学的な表現では、宇宙子、波動などと言われておりますし

神道では言靈コトバと言われております
キリスト教では言コトバと言われております

「^{ハジメ}^{コトバ} 太初に言あり、言は神とともにあり、言は神なりき

この言は太初に神とともに在り

万のものこれによりて成り、成りたる物に一つとしてこれによらで成りたるはなし」これはヨハネ伝に記されているものですが、これは宇宙なる神様の言靈を説明したものです

私達人間は宇宙なる神様と等しくこの力を与えられているのですですから私達人間が言靈として発したものは現実のものとなつて現れて参ります

がしかし現実には宇宙なる神様の言靈と私達が使う言靈とは全く同じものではありません

私達がなにげなく思つたことや考えたことなども現実となつて現れて参ります

想念波動が現象化することになるのです
しかし實際にはいくら思つてみてもちつともそつはならないと思われる事も多いでしょう

これは何故かと申しますと私達の住んでおります現在の地球の次元そして守護の神靈の御働きによつて調整されているお陰なのです

もしも想いがすぐ現象化したならば、現在の地球人類の意識では星はあつという間に滅亡に到ることでしょう

人類は大宇宙の正しさの認識も判断もなく、ただ自分が喜ぶことをしたい放題にあらわす事になつてしまいますが
そこには秩序も目的も理念もない世界が造られてゆくことになります
現実の世界を見つめればまさにその様相を呈しているのです

ですからそこには一人ひとりが大宇宙の真の存在者となる人間となるように正しく導き

人が気づかぬ所の危険からその人を守り、宇宙の秩序の中で指導訓育する守護の神靈という先生がおられるのです

そして地球という一つの世界がありその中に人の学ぶべき必要なものがすべて用意されてあるのです

守護の神靈を初め数多の神々が先生であり地球は大宇宙から見ればまだ途上であり

人間はそこに学ぶ生徒なのでもあります

ですから一日も早く大宇宙の分別を身につけて大宇宙の正しさを行えるようにならなければならないのです

世間に法律がありますように大宇宙にも法則があるのです
大宇宙の法則は大調和です

間違いを行う生徒が先生からたしなめられるがごとく、不調和は調和されてゆくのです

大宇宙から外れた想い行いはカルマとして積まれ
やがて自己の運命上にあらわれてまいります
人間がつくりたカルマはやがて結果となつてそれに応じた報いが運命の上に現れてくるのです

それが個人的には病氣や事故、悲しみ苦しみ嘆きとなつてあらわれたり

人類規模では火山の噴火や地震、台風などの天変地変となつてあらわれたりするのです

すべては人類一人ひとりの想念の総和によつて起こつているのです
これは本人が知つても知らなくてもそのようになつてしまふのです

人間は自分達は正しいと思い込んでいることのほとんどが大宇宙からみると思い違いのような事になつておりまして、知らずの内に大

宇宙から見た犯罪を行つてゐるのです

私達は知らないうちに人を傷つけたり地球を穢けがしたり宇宙を歪ませ
てゐるのです

しかし知らずに行つたことでも罪は罪でありますから、いつかは償
わなければなりません

これが人類の始まりから現在に至るまで、もううづく高く積まれてお
りまして

私達人類が経験したこともないようなことがいつ起ころうとも全く
不思議ではないのです

間違つていたことはやがて正されねばなりません

ここで思い違えてはなりませんが、すべての苦悩（カルマの現れ）
は神が与える罰なのではなく自ら作り出した原因の結果が運命に報
いとなつて現れて

消えてゆくときに起こる相スガタなのです

私達は一日も早く自己満足という大宇宙から外れていた自らの姿に
気がついて

宇宙なる神様の御心をあらわす天命の大地に立ち
自己に与えられた本分を果たすべく眞の働きが出来る人間とならね
ばなりません

大宇宙根源の響きは、人間である私達がその響きとあいあつてその
御働きと等しい働きをすることが出来るものなのです
祈りは大宇宙を創造してゆく力（働き）となるのです

人間は大宇宙を大調和ならしめる無限創造を行つべく言靈の力を等
しく持ち合わせております

大宇宙から外れた想い行いは大宇宙を歪ませるのですが、宇宙なる神様の御心にかなつた正しい心がけと行い、その祈りの響きは大宇宙の歪みを直しさうに無限創造を進めるチカラとなつてゆくものなのです

宇宙なる神様から分かれ出でた人間本来の生きる目的、目標、想い思惑、欲望欲求、望みというものは
本来宇宙なる神様と同じであるべきものなのです

カルマの法則と輪廻転生

カルマとは何のことだらうと初めて耳にされる方もあると思われます

カルマと申しますのは原因という意味なのです

もしも私達人類のカルマが消え去り、大宇宙なる神様の御心がそのままこの地上世界に現れたならば、宇宙なる神様の資質である遙かなる大愛と全知全能が一人ひとりの人間の上にも現れるのです
本来人間はおかれた立場上においては全知全能なる存在なのです

もし自分に思いもかけないような責任、もしくは何としてもしなければならないような出来事が回つて来た時に、あなたならどのようにお考えになられるでしょうか

今まで経験したこともなければ自信もないし方法も知らないし出来るはずがないと

このように思われるでしょうか
もしそうだとしたらそれはカルマの想いなのです

毒ガスのようにあなたのことを包んでいるカルマが、あなたを大宇宙なる神様の分身である神の現れなのだということを忘れさせ、全知全能の神そのものであることを忘れさせているからなのです

これが大宇宙なる神様とあいあつてている人間は全く違つた思案になるのです

とても出来そぬようなことを自分がしなければならない立場に立たされたということは、今の自分にはどこからどう考えてみても出来よもないが、やがてのうちに出来る自分の器量とならせていただけのだ！これはありがたいと思わてくれるものです

大宇宙においてその人間に成し遂げられないような事柄や責任はけつして回つてくるものではありません

これがカルマの想いの中には生きておりますと運命は嵐のように現れて様々な嘆き、悲しみ、苦しみの渦に巻き込まれて

悩みというものが途絶えることがないように思われます

なぜ人間はこのカルマの中で心を患わせ、思い悩んで苦しんでゆくのでしょうか

運命には二通りの運命があります

一つはカルマの渦に包まれた自己満足という大地に立つた運命、そしてもう一つは自己満足から離れて、宇宙なる神様とあいあつて、自己に与えられた使命本分を果たす天命の大地に立つた宇宙なる神様からいただき直した運命です

前者の場合は過去幾星霜の生まれ変わりの中で積みに積んだカルマが、さまざまな運命となつて現れてまいります、その時に人間はそれに戸惑い、それに嘆き、それに悲しみ苦しんで、あげくには自分を責めたり、人を恨んだり呪つたり、世間のせいにしたりとそれによつてまた更なるカルマが積まれて、運命はどんどん悪くなる一方となります

カルマというものは人間の自己満足という不心得によつて作られ蓄積してゆくものなのです

本来人間は大宇宙なる神様があらわれの世界の大宇宙に一人ひとりの人間となつて現れて

大宇宙を大調和するべく無限創造に導くべき存在者なのです
ところが人類はいつたい何をしているのでしょうか

誰ひとり、いやほんどの人々がこの働きになつていなければかりか、

天地自然の恩愛や恩恵を無限に受け、戴いているにもかかわらずそれを当たり前と思い違え、感謝の心も持たないばかりか、日々に金銭財物を追い求め、金持ちになるようにとか、病気にならないようにとかあれこれと健康食品を試してみたり、瘦せる為やストレス解消の為にスポーツクラブに通つてみたりと、すべてが自分のことばかりなのです

自分の想いを実現する為なら人間は戦つてでも押し通し貫き通そつとして

自分の欲望やわがままな想いや感情を正当化して実現することにやつきになつてゐるばかりなのです

「ええつ、お金持ちになることや健康になることを望むのは人間として当たり前じやないか」と皆さまもお考えになりますでしょうがしかしこれが大宇宙を生きる人間としては犯罪に等しい悪なのです

人間本来の働きであります宇宙なる神様の御心を地上世界に現すということ以外の想い行いのすべてはカルマを作り積むことになりますそして大宇宙の法則から見たならば犯罪であり悪なのです

積みに積まれたカルマが運命となつて現れ消えて行くときに、病気になつたり悲しみに出会つたり苦しみに出会つたり辛かつたりお金が無かつたり、災難に巻き込まれたりするような運命上の現象として現れてくるのです

「おもいたるはなしたるなり」これはイエスが残されたお言葉ですがここに大宇宙の真実があります

私達の現実の世界だけを見つめておりますと、人の物を盗んだり、ルールを破つた時に罪となります、この大宇宙の中では想つたことも行つたことと同じ事になるということなのです

あんなやついなくなればいいとか、殺してやりたいとか、想つただ

けでそれはもうしたことになるのです

なぜでしょうか、それはこの大宇宙があらわれの世界とそれ以前の世界の表裏一体で出来て いるからなのです

大宇宙の真実、それは見えないものが先、見えるものが後といつことなのです

そこにビルを建てようと想うからビルが建ち、おなががすいてご飯を食べたいなあと想うからご飯を食べる、このように現実に起こる以前には必ず想いという見えない世界での事象があつて、そこから初めて現実となつて現れて来るのです

ですから私達の目に映つて いるこの現れの世界はすべて人間一人ひとりの想念の総和による影響によつて出来て いるのです

それは天地自然の有り様から動植物に至るまで、一切の例外なくその星に住む人類の想念の影響を受けてその姿形を現しているものなのです

もしも人類の想念が穢れないものであつたならば、その星の天地自然是美しく清らかで、嘆き悲しみ苦しむ人もなく、戦争もなければ飢餓もなく、雑草とか毒虫などと呼ばれるような生物は一切存在せず、嵐や強風雨、地震や火山の爆発なども起こらず、この世には塵一つ曇りや汚れ一つない、ただただ美しいとしかいいようのない世界が出現するだけなのです

私達人類の想念によつては、新しいウイルスや今までなかつたような新しい癌細胞などがたつた一日もかからずにいきなり出現することもあるのです

動物などは数百年のサイクルで進化が変わり植物はもつと早いサイ

クルで人類の想念の影響を受けて変化するのです

もしもそこに塵一つが落ちているとするならば、それは私達の穢れでありカルマなのです

毒虫がいるということは私達人間の間違つた想念の結集が本来の姿から似ても似つかぬような虫の姿にしてしまつてはいるものなのです

塵一つが落ちているということはこの地球の何処かにたとえようもない、嘆き悲しみ苦しみにあつてはいる人がいるということなのですカルマがあるということは、すなわち天地自然はもとより動植物や人間を含めた全ての存在がその影響を受けていくことになるのです

ではなぜ人間がカルマに覆われ、自己満足の生活を始めてしまったのでしょうか

大宇宙なる神様が私達の存在する大宇宙をあらわすときにお決めになられた事があるのです

このあらわれの世界の大宇宙を大調和なさしめるべく、人間を創られて、宇宙なる神様ご自身が分かれて

その一人ひとりの中に宿つておられるのです

そして人間の一人ひとりにご自身と同じく自由と尊厳をお与え下さいました

人間は宇宙なる神様に自由に大宇宙を創造する機会と力を与えられているのです

もしも人間に自由がなかつたとしたならば、私達は单なるロボットになる訳です

言わされたことを言われた通りにしかしない人間ロボット

宇宙なる神様は私達人間に自由を与える、自由意志によつて縦横無尽

に大宇宙を創造するべく使命を下さつたのです

尊厳とは、人間は宇宙なる神様の分かれた現れの姿ですから、本来誰からも敬われ、尊ばれ、讃えられるべき存在なのです。人間はこれを思い違いはき違いをして今の自己満足の世界に陥つていることになるのです

人間は本来、宇宙なる神様に成り代わつて現れの大宇宙を大調和ならしめるべく無限創造に導く存在なのです。ですから人間は宇宙なる神様の資質であります遙かなる大愛と全知全能なる力が、自分のおかれている立場の上で現せるのです。おされた立場上の使命本分を果たせぬ人間はいないのです

今の私達がそうでないのはカルマがあるからなのです

大宇宙の経綸の一つは法則

宇宙なる神様がご自身を分けた人間に自由と尊厳を与えたと同時に科せられた法則がカルマの法則なのです

イエスは蒔いた種は何人たりともこれを刈り取らねばならない、と言われたのはこのカルマの法則をさしたものなのです

本来自由自在に宇宙の無限創造をなすべく働きとなる人間が、神の満足ではなく自己の満足の為に、神より与えられた肉体や力を使つているのです

ほおつておけば本来の働きからどんどん離れていくてしまう為、大宇宙なる神様のその御心から離れた分、カルマとして積まれ、やがてのうちに運命にあらわれて消えてゆくカルマの法則を定められたのです

そのあらわれては消えてゆく時に、喜びとなつたり、痛み苦しみとなつて肉体的精神的に感じられるのです

その事象によつて人間は自分が間違つていたのだなあ、神様の御心から外れていたのだなあ、と本来の自分に気がついて、やがて大宇宙本来の道に戻るのです

これは星一つが消滅する程の事が躊躇もなく起きるほどに厳しいものですね

宇宙なる神様はなぜそのように厳しい掟を人間に科せられたのでしょうか

それは人間が宇宙なる神様ご自身だからなのです

人間が苦しんでいるということは宇宙なる神様ご自身が苦しまれているということなのです

己自身だからこそ厳しいのです

しかし宇宙なる神様はカルマの縁に落ち込もうとしている人間や人類を黙つて見ているだけではありません

ここに宇宙なる神様の経綸のもう一つ

救済という働きがあるので

大宇宙の経綸のもつ一つは大宇宙創造の為の理念であります

これを家を建てる時に例えてみますと、まずどのような建物を建てるのか具体的なイメージや設計を決めて、どこに立てるのか土地や場所を決めて、素材は何を使うかデザインはどんな感じにするか備品は何を配置するかなど諸々の事柄を決めて創りあげてゆくのと同じように、宇宙なる神様も大宇宙をお創りになられたのです
けれどこの大宇宙はまだまだ完成した訳ではないのです

それは家が出来ましてもそこに住む家族がどんな人物となり、どのように生活をしてどのような働きをするかによって家の未来が決まるからなのです

家族の一人ひとりが自己に与えられた使命本分をはたし、互いにあり和し成長しあうことによって初めて本当の家族と言えるのではないか

父は父らしく、母は母らしく、子供は子供らしく、皆それぞれが与えられた使命本分をはたして、お互が成長の為にお互いを磨き、未熟や苦しみ悲しみ嘆くものがいたならばこれを皆で助け、補い、導いて平和な家庭を築き上げ、創意工夫の中で進歩を遂げてゆき、生活をより高度で偉大なものとなし、調和された家庭を作り上げてゆく

変えて見ればこれは一つの家庭といつ宇宙をあらわすことにもなるのではないでしょか

宇宙なる神様の経緯のひとつ救済の働きとはどのような事かと申しますと

親は子供が世の為人の為となるような立派な人間となるべく導き育てるように

宇宙では偉大な存在者がまだ未熟なものを補い、導いて宇宙なる神様の御心にかなう存在となさしめてゆかれるというものなのです
私達地球人類は大宇宙の一つの家族なのであります

大宇宙には理念があります、それは調和と進化です

この理念のもとに完成へと向かつて大宇宙は歩んでいます
それは規模が違うだけで一つの家庭もこの大宇宙と同じなのです
現時点において私達の社会は不調和で混沌としているのです

輪廻転生は生まれ変わりのことですが、これを知るには人間の肉体と魂の事実とその性質を理解する必要があると思われます
現時点での地球における人間の相も大宇宙創造を進める過程における一つの形なのです

人類が進化してゆきますとある時点までは非物質から物質化してゆき、ある時点からは反転して物質から非物質へと移行してゆきます
宇宙全体が拡がりの極に達するまでは物質的な拡がりとなり極から縮小に移り変わったときに非物質化が始まるのです

しかし此れは總体としての宇宙の状態でありまして、小宇宙の規模ではこのプロセスがあちらこちらに存在しているのです

ですから存在する宇宙が中期以降に達している星々の人類は非物質化しております、前期から中期にかかるている宇宙に存在する星々の人類は物質的なのです

もちろんどちらが上でどちらが下という事なのではありません
宇宙は、全体でひとつなのですから

それでは肉体とは何か、これはいわゆるロボットのようなものなのです

現れの世界で物質的な組織活動が出来るよつに創られた肉体ロボットです

そして魂は感覚的想念体です

本当の自分はその中におります分靈なのですが、これは完全な非物質である為にこのままでは現れの地上物質世界では働く事が出来ないのです

そこで肉体が必要となるのです

肉体はよく考えて見ますと地球上の成分物質によつて創られたものなのです

私達の肉体は何によつて出来ておりますでしょうか

タンパク質にカルシウムに脂肪、鉄分などの微量の金属群にミネラルなどで大半は水分で出来ております

ではこれらの要素はどこから補われているのでしょうか

当然食物としていただいております肉、魚、野菜など、そして水に光に空氣です

動物は大地に生える植物を食べて血肉としております、その植物は大地の栄養と水、光、空氣の恵みによつて育ちます

植物はその恵みを動物が食物として得られるように変換してくれています

滋養エネルギーの植物変換とでも申しましようか

このように私達の肉体は土と、水、光、空氣、が元になつておりますこれらが宇宙なる神のお力によつて創られて維持されているのです

私達の肉体は地球と同体であり、地球が汚れてくれば当然人体も又同じことになります

そして分靈は自己の力で魂を作り星にいただいた魂とあわせて肉体に宿るのです

肉体は物質、分靈は非物質なので直接あわせることが出来ず、魂が肉体と分靈をあわせる働きをもしているのです

分靈そのものは宇宙なる神の志なのですが、想念体であります魂が肉体に宿つておりますと、いつかしらず分靈の志を忘れてしまいまして

肉体の想いに引きずられて悪い癖をつけてしまつたりするのです、それは肉体を喜ばす想い、自己満足の想いなのです

本来なら宇宙神満足で生きるべく人間が、大宇宙の理念からはずれた想念行為を繰り返し大宇宙に歪みを作りカルマを生むのですやがて自己が宇宙なる神様の現れた一人であることを忘れ、肉体人間へと落ちぶれてゆくのです、それが私達人間の偽らざる現在の姿

なのです

一般に肉体の死後に肉体から離れた分靈を乗せた魂は、守護の神靈の指導を受け、自己の過ちに気がつくべく世界（靈界、幽界等）に身を置き、やがてまた守護靈様の御心によりこの肉体世界に生まれ出てくるのです

しかし、まったくと言つていいほど違つ意味を持つ輪廻転生も数多くあるのです

ここには神の深い恩愛と計画と配慮がありまして、すべては大宇宙の fundamental 理念である平和と進化へとつながるものなのです

輪廻転生の理由の一つには自己が積んだカルマを消滅し、宇宙なる神様の御心にかなう魂となるために自己を磨き高め、偉大な人間となりゆく為の輪廻転生があります

人間は過去幾回数の転生の中で、積みに積んだカルマが自己の運命の中に、もう山のようになつて積まれております、そのカルマを消滅して進化につながる為の輪廻転生なのです

もし、私達の今回の人生で味わうべく困難や苦しみがたつた一日の中にまとめて現れたとしたらどうでしょうか

私達の誰ひとりも耐えうる人間はいないでしょう、そればかりか魂はひねくれて自分が積んだカルマにもかかわらず神様を逆恨みしてしまうのではないか

大宇宙では魂の進化向上こそ必要であり、魂がひねくれたのでは宇宙なる神様に申し訳が立たないということになります

そこを守護の神靈は私達の魂がひねくれないよう、そして立派になるようにそれはもう語り尽くせぬほどに深い恩愛と配慮と計画の中で、運命上にカルマをあらわしてお導き下さるのです

しかも今までその4／5を守護の神靈が受けて下さり私達が我が身に受けるのはその1／5なのです

そのご計画の中に輪廻転生があり人生があり、人と人との縁があるのです

守護の神靈は一人の人間のおよそ五百年の年月を靈界、幽界とこの肉体世界を通して守り導かれているものなのです

またもうひとつ輪廻転生の意味とは、人間世界が宇宙なる神様の御心から離れて乱れ「もうこのままでは如何ともしがたい」と思われた時に神、自らが人間となつて生まれ出でて

世の乱れを平定するお働きをなさるという輪廻転生があります

戦国時代の名だたる武将方、過去に現れた聖者、賢者方には、数多くのアラヒトカミ
このような現人神アラヒトカミがおられたようです

またすでに偉大なる宇宙神の存在が救済の働きとして、未熟な宇宙の人類と同じ凡夫の姿を自ら現して

数万回の輪廻の中で人類を導き、育み、縁を結び、宇宙なる神様の御心にかなうべく人類となるように導かれるような輪廻転生もあるのです

お釈迦様やイエス・キリストなどはそういう方々であるのですね

またひとつには生まれながらにして自らが困難を抱え犠牲になることによりその人もしくは人類のカルマを祓うただその為にこの世に生まれて

自己以外の人間を救うことだけの為に苦しみの中で一生を終わるような輪廻転生があります

生まれながらの障害を持つ人々、苦しみの中で生涯を送らねばならない運命を歩む人々があります

このように一生涯を苦しみの中で過ごされます方々の中には、このような菩薩行をなさっている方々も多数おられるのです

現時点で私達が普通に生活していられるのも、このような偉大な魂の尊い犠牲があるからなのです

私達はそれも、今は知らなければならぬのです

守護の神靈とは

宇宙なる神なくして人間が存在することはありません
文明やその叡智、愛も勇氣も、すべては宇宙神より発して流れ
人間の命となり姿となりその創造活動になつて現れてくるものな
です

大宇宙はもちろんのことすべての星々もそれを取り巻く環境も何一
つ神より現れずして存在するものなく、偶發的に存在するものは
一つもないのです

宇宙神と人間の関わりを考えるときに守護の神靈と人間の関わりを
知つて感じることがいちばんの早道でしょう

守護の神靈と人間とは実はとても身近な関係をもつてているのです
それは血縁關係上の親と子のような間柄なのです

守護の神靈はその人の靈的進化と神の子の質を護り導くのです
守護の神靈と人間とは「魂」の親と子なのです

人間がその命を生きる時に、もつとも大事な神とは守護の神靈なの
です

人間は守護の神靈との二人三脚の人生を生きておりまして
一拳手一投足を守護され指導されて、日々の生活を営んでいるもの
なのです

守護の神靈こそが人生最上の神であるといえるでしょう

宇宙は調和です、調和は天地自然森羅万象万世万物に渡つて宇宙の
根本原理なのです

人間は眠つてゐる間に守護の神靈によつてカルマを祓われてゐるの

ですが

それは夢にとても深く関係があるのです

事実、人間は眠らなくても死にませんが夢を見ないと死んでしまうのです

睡眠はこの夢を見るための必要動作であるといつてもよいでしょう
守護の神靈は人間が寝て想念を停止している間にカルマを消して下
さっているのです

本来なら現実の運命の中に起こる出来事を夢にあらわして消して下
さっているのです

ですから死ぬような目に遭う夢などは実はとてもありがたいものだ
ったのです

なぜなら本来死ぬところを守護の神靈の裁量で情状酌量で済まして
ください、そのカルマを消していただいているものだからなのです

地球人類の想念は大宇宙の調和の法則から見れば、正しさとは程遠
い罪穢れにみちたものなのです

宇宙の正しさから外れた想念がほぼ100%なのです

この想念の罪穢れの80%を守護の神靈が祓つて下さっているので
すが、これは本来自己が受けるべく痛み苦しみをその導かれる守護
の神靈が現実に身代わりになつて痛み苦しみを受けて下さっている
ということなのです

人類はこれによつて大幅に滅亡の速度を緩められているのです
もしも守護の神靈の働きがなかつたとしたなら、人類はとつぐの昔
に滅亡し去つっていたであります・・・・・

そんな守護の神靈の存在も地球最初の人類にはなかつたのです

最初の頃の人類は非常に優れた靈性がありまして、その靈性によつ
て望みさえすれば自己の本體靈と直接に繋がり、さらに神々諸神靈
と交流することも出来たようです

これは一面ではとても素晴らしいことではあるのですが、その反面ではとても難しい問題を含んでいます

いくら靈性に優れた人類であつたとしても、肉体を纏い地上物質生活をしてゆきますと

次第に肉体生理の快不快、あるいは怠惰や、名譽や権力など自己満足の想いの方に心を奪われてゆく傾向になるのは、現実の肉体生活の中では否めない事実であります

一度、心が肉体生活の快不快に奪われ始めると、それがとめどもなくなつてゆくのは人間の常であるようです

やがてそのような事情で諫める神々の存在が疎まれ出したのです

それゆえ神々の正義は次第に人々の憎むところとなり、神々と交流する人々が一部の領域に限られ、あるいは一部の人々に限られ出していくと

最初の頃とはすっかりと事情が変わってしまったのでした

これによつて最初は存在しなかつた靈界と地獄界（＝魔界、幽界）が現れたのです

現在の地球人類の場合はそういう人類の悪想念によつて幽界が現れて来ているものですから、人間自身の靈性を開きしてその靈性に限度を設けておかなければ多くの人間が幽界と簡単に導通して、全人類的にその影響をまともに受けかねないのでした

靈性（靈能）の一面には神々、諸神靈と交流するよりもむしろ幽界の存在や生物と会話し交流してしまうところにあるのです

そこで、地球上では天界の主宰神である天之御中主大神様が、人類の靈性に「枠」を設けて制限なさつたのでした

その代わり惑星守護神様（聖觀音）が度重なる滅亡の経験によって人類救済の想いに目覚めた神靈が現れて人類救済の悲願を持つてい

るところから、それらの方々を個々の人間の背後に守護の神靈として遣わして個々の人間を救済する計画を立てられ、それを受けて人間の本体である直靈様が、自己の一部を分けて守護神とし、あるいは覺つた人間を守護神に任じ、その志を持った修行中の靈人を守護の神靈として配置し、各人の上に存在せしめることとなつたのです

こうして守護の神靈は二十四時間+@休みなく、一人ひとりの人間の背後にあつて人知れず日々瞬々刻々を守り導びいておられますそして人類全体を大宇宙の理念の上に乗せて、その永遠の大道を歩ましめようとしておられるのです

こうして宇宙なる神様から生命を分け与えられて靈魂魄（魄は肉体のこと）となつて現れて

大宇宙に始まり星の天地自然森羅万象万世万物を恵まれて、また無限数の神々を遣わされて、一人ひとりの人間と人類とを守護しておられることは事実以外の何者でもないのですが

人間は自己を物質から偶發的に誕生して進化によつて今の姿になつている存在くらいに考えてしまつてゐるのです

大宇宙の神秘的大生命というものから考えなければならないのに、現在までは人間はどうしてもそのように考へることが出来なかつたようです

大宇宙に理念あるゆえに現れていける命を、愛や、叡知や、勇氣などのすべてのものを思い違えたように、大宇宙の永遠の存在とは無関係のものと捉えてしまつて

単に偶然に物質組織である肉体的活動から発生したものと考えられているのです

それゆえに現在の人類は大宇宙から与えられた天命や使命を感じることができないでいるのでしょうか

しかし、神はそういう現在の地球人類でさえ、決して今日のままに滅びさせようとはしてはおられないのです
肉体を持つた人間の働きなくして大宇宙を調和ならしめる無限創造の道はありません

神の経縻、そのひとつはそれぞれの人々の上にあって、一人の人間ににつきつさりで守り導いている守護の神靈と、守護の神靈の上にあつて守護の神靈を通して

人間一人ひとりを導いている守護神様が存在することです
この力は絶大なものであり、特に一日二十四時間を守り導いている
守護の神靈の働きは、想像を絶するほどの偉大さであると想われます

守護の神靈がその姿を消したならば人間は三日と生きてはいられず
に死に絶えるほどのものなのです

その衣食住から人生万般、大宇宙の道に至る道程のすべてについて、
肉体界、幽界、靈界を含めて、一切の責任を持つて非守護体の人間
を守り導き続けていります

人間の誕生から死、そして死後の生活から輪廻転生の一々まで

守護の神靈のその労苦を厭わぬ献身の偉大さは、言葉では語れぬほ
どのものなのです

人間が宇宙神とひとつになつて交流しようとする時に、その仲立ち
となつて働いて下さるのが守護の神靈なのです

人間は守護の神靈抜きにして自己の力では何ひとつも出来ないもの
なのです

私なども幼少の頃より今に至るまで、それはもう数え切れないほど
の守護の神靈の護り導きを数多く想いだされます

十代の頃などは無鉄砲な方で、オートバイを乗り回しスリルを感じ

たいが為に隨分危ないことも致しました

そんな中にあともう少しで命を落とすか大ケガをするような場面が隨分とあつたものですがそんな時も間一髪で助かつたり、かすり傷程度ですんだりしているのです

その頃の自分は運がいいくらいにしか思つていなかつたのですが、ある頃から何か大きなちからが働いていて、その存在によつて自分がどう人間は救われ助けられているのではないだらうかと想われてきたものでした

ある日も調子に乗つてバイクを乗り回していた時、不意に誤つて二メートルほどのコンクリートで出来た溝に落ちてしまつました左足大腿骨骨折、いわゆるももの骨をぼつきり折つてしまつましたこの出来事は私を大きく変える事件でした

その手術前に身動きひとつれない折れた足は吊られ、痛みを感じながら眠れずに朦朧とする意識の中で、何度もその足を折つた瞬間の夢を見るのでした

夢の中では私が頭からコンクリートに直撃するのです、その瞬間恐怖の余りに体がのけぞり、折れて吊られた足を捻つてしまつ為に激痛が走り目が覚めるのです

自分の肉体が痛む中で、これは今までの自分に対する戒めだつたしかも自分は頭を打つて死んでいたかもしれないところをこの足一本で済ましていただいたのだと、そう思われるのでした

このケガをしたことで父母を始め、たくさんの方々に迷惑をかけた上に心配をかけてしまいました

今迄自分が勝手気ままに生きてきてその結果しでかした事なのに何とも申し訳なくて・・・

痛い思いをするまでは両親を始め縁ある方々の恩愛や存在のありがたさ、自分を想つて下さる想いの大きさに気がつかず、一切無視して手前勝手に生きておりました

人間は真実生かされ、守られ、導かれているのだと強く感じられた事件でもあったのです

小学生の頃に後ろの百太郎といった題名だったと思いますが、そんなマンガがありました
その中に百太郎と呼ばれる守護の神靈が出て来られまして
主人公の少年が幽界や靈に関わる事件に巻き込まれてゆくのです
そして主人公が絶体絶命の危機に立たされたその瞬間に主人公を助けるべく現れて

悪靈を祓うと言うような筋書きだつたと思います

これはきっと自分にもこのような方がおられて、危ないときには助けて下さつているのではと思われました

小学生のある掃除の時なども他のみんなは先生がみている所ではなくやつているのですが先生がいなくなると途端にサボり出してまじめにやらないのです

思えば守護の神靈の教えたのでしが「人が見ていよいと見てなからう」と一切関係はない、褒められるからするのではなく、人の嫌がる事は自ら進んですること、誰ひとり見ていなくとも天はそれをいつも見ているのだ」と心に響いてくるのでした

このように人生のあらゆる所で教えをいただき導いて下さったのだと、今になつてつづく想われるのです

人間の運命には誰ひとりとして例外なく、メラメラと真っ赤に燃えさかる巨大な炎を通り抜けるような事があるのです
しかしこれを知つて行く人は必ず、おろおろしたり、ヒターンしたり、直角に曲がつたりとかして、なかなかここに行こうとはいたしません

わかっている炎の中になど恐ろしくて飛び込めるものではないからです

しかし、守護の神靈を信じている人は、一々将来や未来を教えて貢おうとは思わないものです

ただ信じる、ただそれだけで生きて行くのです

もし、未来を教えて貢つて納得して生きて行くとするならば、必ずメラメラと燃えさかる運命の炎に出くわすのですから、この炎の中に自ら入つて行ける人はいないのです

未来を知つてしまふと人間は必ずヒターンしてしまつでしょうしかし人間はこの燃えさかる炎のような中に入つて行かないと運命の蓋が開かないのです

そして人によつてはそれが運命上に幾つもあるのです

人間はその炎に焼かれてしまつて通り抜けたときに新しい姿となつて現れるのです

そういう意味では人間は火の鳥であり、不死鳥なのです

これが知らないで行くとギリギリまで近づいて、中に入つてもピンとこないのです

やあ、ひどくつらいけど、守護の神靈がこれで良いと思われているのだからこれで良いのだと思つて通り抜けて

突き抜けてしまつてしまらくしてから後ろを振り返つて考えた時に（おお、よくもあそこを通つたものだ）と思つたりするのです

これは守護の神靈があつてこそ初めて出来ることなのです

守護の神靈の守り導きとはこのようにありがたいものなのです

人間は肉体を車に例えたならば、ドライバーは自分でありナビゲーターは守護の神靈です

ナビゲーターは何分後どれくらい進めば川があるとかこれくらいのカーブがあるとか

後何キロぐらいでゴールに着くとか、燃料はどれくらいあつて何処まで持ちそ�であるかなどすべて把握しながら指示を出して下さるのです

ドライバーだけでは田の前に展開する状況に対応するだけで精一杯であり、コースが困難になればなるほどに余裕もなくなり一瞬の油断や限界を超えたときには事故を起こしてしまいます

守護の神靈なくしては誰も存在し得ないものなのです

天命の大地に立つて

天地自然は自己の本分を果しております

水は水の本分を果し、海になつたり川になつたり
雨にもなればお茶になつたりおしつこにもなつたりします

水は人間が生きてゆけるように呑くし続けているのです

光は光の本分を果し、空気は空気の本分を果たし、花は花らしく、
自己の使命を果たして人間に仕えぬくしているのです

それは宇宙なる神様が形を変えて私達人間にお尽くし下さりしている
お姿でもあるのです

このように私達の存在するすべてのが宇宙なる神様の現れの
姿であるのです

すべてに仕えぬくしすべてを『えすべてを慈しみすべてを癒してい
る・・・・

それなのに人間はそれらの事々に対してもう想つていいのでしょうか

(水や光や空気だつてえ、そんな物は俺が生まれる前からあつたん
だから当たり前じやないか、水道代も電気代だつてちゃんと払つてる
しどこに感謝する必要があるのか)という具合ではないでしょうか
これはちょうど人類の親子関係の観念に等しいのではないでしょうか
親なんだから子供におこづかいくれたり「はん作つたり、育てるの
は当たり前じやない

親が子供を育てるのは当然の義務じやないの、とこんな具合でしょ
うか

この当たり前というのがそうではないことに気がつかなければならな
いのですが

皆様はどのようにお考えになりますでしょうか

もしも自分で作った覚えもないものを頂いたとするならば当然感謝するはずです

水道局が水を作っているのではありません、電力会社は地球の資源メガミを変換して電気を作つて蛍光灯や電球の光りとなつてゐるのであって置や壁コンクリートやビニールやプラスチック製品に至るまで、その元は植物であつたり、岩石であつたり、すべては天地自然の恵みなのです

お金を払つているのはそれらを取つて来て加工して、家とか服とか製品化する過程の手間賃を払つてゐるだけで、その元の天地自然の恵みに対してもだれもお金を払つてはおりませんし感謝もしております

食事をいただく時にお魚やお肉や野菜がお母さんの手によつて料理されて食卓に並びます、それもよく考えてみれば人間は生きとし生けるものを殺して食べて自らの血肉として生きています
殺したのは農家の人もでもなければ漁師さんでもありません
食べているその本人が動植物を殺しているのです

真実から見たならば、殺した物は必ず殺し返されるのです
そうすると人間は一生涯生きる中で、もう何度も殺されねばならなくなります

これでは大変です、これを破るのは人間の正しい心がけなのです
動植物が人間のために命を与え仕え尽くしているのだから、人間は宇宙なる神様の為に
いつでも命を捨てる（イカス）覚悟がなければ動植物を食べる」とすらままならないのです

言葉の上で動植物を愛する人はたくさんおられます、眞に動植物

を愛する人はおられません

何故ならば、真に愛する人が動植物をいただいたならばその犠牲に恥じない立派な人間となる決意と、我が命をいつでも神様に使っていただく覚悟と、動植物達の天命が完うされますようにとの哀れみの心を決して忘れぬものだからです

言葉では花にも心があるからと言いながら、同じ口で米や野菜サラダは食べるし

イルカは知的だから人間と兄弟ですと言いながら、同じ口で分厚いステーキをおいしそうに食べる

こんな理不尽な話が普通に横行しているのですから

真に動植物を愛する人は大宇宙なる神様に命を懸けられる人なのです

その人が植物を食べたとき、植物がこの人の為なら犠牲になつてもかまわない、大いなる働きをする方だから喜んでこの人の血肉になろうと、そのように植物が思ってくれるような人間にならなければなりません

真に大宇宙を生きる人は、命を懸けて宇宙なる神様に尽くす事の喜びを知っているのです

動植物も又そのような人の為なら喜んで食べられてその人の血肉となり、ともに働く

それがまた動植物の喜びになることを知る人はおられないのではと想われます

花は人に見られて愛されることが喜びなのです

一生涯人の目に触れない花の悲しみがあるのをご存じでしょうか

花は切られても決して恐怖せず、人のそばに置かれてその美しさを際立たせるように

生けられて愛される事が花の喜びなのです

花と女性は等しく例えられますが、花は又、眞の女性の在り方まで

も教えてくれているのです

人間はこのように無限の恵みを頂いておきながら眞の感謝をしない
そして大宇宙の中での人間としての働きもしていないという事にな
ればやがてどういうことになるのでしょうか
皆様が宇宙なる神様ならどうなさるでしょうか

私達が宇宙なる神様より与えられ任されている働き「大宇宙を調和
ならしめる為の無限創造に導きゆくこと」これが大宇宙を生きるす
べての人間に与えられた天命であり使命なのです

天命にはその存在よつていろいろな相がありますスガタ

ひとつ銀河宇宙の天命、地球の天命、人類の天命、日本という國
の天命、土地々の天命、山々の天命、そこに住む人々の天命、お父
さん、お母さんの天命、赤ちゃんの時の天命、少年少女の時の天命、
社会人の時の天命と申しますよつに己々置かれた立場や境遇によつ
て变化いたします

さらに一人の人間に与えられた天命の場合はと申しますと、地球人
類としての天命、子供の時の天命、夫や妻としての天命、父や母と
しての天命、会社員としての天命と申しますように対象により様々
な相となり時々刻々と変化してゆくものなのです

人間自身はもとより、天地自然、動植物から細菌に至るまでがすべ
て人間の想念の総和によつて影響を受けて今の姿を現しているのです
それをして人は万物の靈長といふのです
それらのすべてを宇宙なる神様の御心にかなう姿に育み、その天地
自然や動植物の命をいかす

これもまた人類に宇宙なる神様より与えられ任された天命なのです
天命の中で宇宙に存在するすべてにあてはまるものは
宇宙なる神様の御心を現れの世界に実現するということです

すなわち大宇宙の理念を世界の隅々まで現すという無限に続く創造活動なのです

大宇宙の理念とは平和と進化

またその根本原則は調和であり、カルマの法則はもちろん宇宙のすべてはこの法則の上になりたっているのです

今、地球を含めた太陽系の天位が上昇しているのです
人類の人格がそれに見合ったものになってゆかないと、星の進化についてではゆけないことになります

大宇宙の試験に落ちることになるわけであります
今まで人は恨んだり憎んだりしていたようなこともまだ許されても天位が上がった時には許されなくなるのです
今のままでは通用しなくなるのです

人類はすでに地球規模で六回の滅亡を経験しているのです
そして今は七回目に差しかかっているのです

1週間が7で区切られておりますように、7というのは宇宙の真数、進化のリズムなのです

この7というリズムによって宇宙の無限進化向上がなされてゆくのですが、それがどういうことかと申しますと、もう6回試験に落ちて7回めの後はないということなのです

今は地球という星そのものはその進化のリズムに乗りました
それなのに人類は何をしているというのでしょうか

今までの数万回の幾転生の中で、人格を進める為に血の滲む様な人生を延々と積み重ねて来たというのに

今の人類は試験中に消しゴムを投げて遊んでいるようなものなのです
これでは試験に受かるはずもなく、このままで人類の運命が滅ばな

いと誰が言えるのでしょうか

今、地球人類はもうギリギリ限界のところに来ている事を誰もが知らねばならないのです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0931d/>

カミユイ

2010年10月28日07時35分発行